

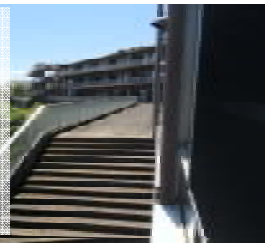


田谷の風

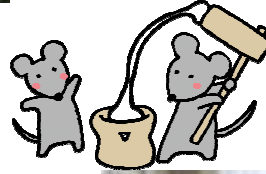
第40号

発行日:令和2年4月10日(四半期発行)
介護老人保健施設ケアポート・田谷機関紙
〒244-0844 横浜市栄区田谷町 2030-3
TEL:045-858-5882

発行責任者:吉田憲一



ケアポート・田谷 新たな一歩 ～初めての餅つき大会～



春光うらかな季節となりました。例年であれば大変気持ちの良い時期ですが、今年は新型コロナウイルスの影響で鬱々とした日々が続いています。不安を感じる事も多いですが、せめてこの紙面くらいは明るくありたいものです。

さて本題ですが、今号では2月7日に行われた「餅つき大会」についてお伝えしたいと思います。タイトルの通り、この催しは当施設にとって全く初めての試みだった訳ですが、ご利用者の笑顔と活気に満ちた、とても楽しいものとなりました。

文字数の関係により、当日の詳しい様子については各フロアからの記事をご参照いただくとして、私からはこの餅つき大会の開催に際し、当施設がどのような安全策を講じたかについてお話ししたいと思います。

そもそもこの企画は、「施設で餅つきが出来たら、ご利用者に喜んでいただけるのではないか」という考えから始まりました。しかしながらそれを実現させるためには、いかにご利用者の安全を確保するかが大きな課題でした。中でも餅の喫食には職員内でも賛否両論あり、安全に召し上がっていただくための方法を確認する必要がありました。難しい問題ではありましたが、餅を小さくちぎることで誤嚥や窒息のリスク軽減を図る他、嚥下機能の低下した方には餅ムース（見た目や風味は損なわずに、粘着性や付着性を無くして容易に潰せるよう加工したもの）を代用することで、どのご利用者も安全に召し上がれるように配慮しました。また、喫食時には普段よりも多くの職員を配置して見守りや声掛けを強化し、更に万が一に備えて看護師を中心とした救護体制も整えました。幸いにも誤嚥や窒息などの事故は1件もなく、ご利用者の笑顔に包まれたまま、初めての餅つき大会を終えることが出来ました。



今回の催しでは、施設として「危険だからやらない」ではなく「どうしたら出来るか」を考える大変良い機会となりました。この経験を糧に、これからもご利用者に喜んでいただけるようなサービスを提供していけたらと思っています。

最後になりましたが、ケアポート・田谷が「餅つき大会」という大きな一歩を踏み出すことが出来たのは、この催しの実施とご利用者への餅の提供について快くご了承いただきました

ご家族の皆様のおかげであり、職員一同、心より感謝申し上げます。今後はこの餅つき大会をご家族の皆様にもご参加いただけるようなものに昇華し、ご利用者の更なる笑顔を引き出せるようにしたいと考えております。ありがとうございました。

栄養科副主任 江崎ふみ



餅つき大会

令和2年2月7日にケアポート田谷でのイベントとして初の試みである『餅つき大会』が行われました。高齢者施設では敬遠されがちである『もち』と驚かれた方がたくさんいらっしゃると思います。ただ、利用者様に『伝統文化で喜んでほしい』という思いより、この企画がスタートしました。

まずはスタッフによりもちつきのお手本です。初めてだった為ぎこちない動作でしたが、利用者様の「よいしょー！」というかけ声と共に気合いが入り、次の日が筋肉痛になるほど腕を振り下ろしました。

次に利用者様の出番です。いつも杖をつき、ゆっくりと歩かれている方より手が拳がります。昔の事を思い出したのでしょうか。杵はスタッフのより少し軽いです。もちろん体も支えました。「よいしょー！」というかけ声とともに力強い姿をみせてくれます。「昔はよくやったのよ」と笑顔で餅つきをします。大きな拍手が沸きあがりました。



いよいよ最後はついた餅を食べます。お餅を食べることができない方には『もちムース』という形態にして『おしるこ』を頂きました。

初めての餅つきはご利用者様が笑顔の中、終わることができました。今回はスタッフも緊張しながらのイベントです。ご家族の方のご理解とご協力のもとで行う事ができ、感謝致します。ありがとうございました。

2階介護 倉本英恵

来年も餅つきを！

皆様ご存じかと思いますが、毎年のようにお餅を詰まらせてしまう事故がニュースになり、お餅 = 喉に詰まらせやすい食べ物として認知されていますね。ですが、最近はお餅を提供する高齢者施設も増えてきているようです。ご利用者に餅つきの思い出を聞くと、多くのご利用者が「昔、よくやったよ」「大変だったけど楽しかった」と口々に仰います。当施設でもその思いに応えようと初めての開催となりました。当日は職員が杵を振るうたびに大きな掛け声が掛かり、頑張れといった励ましのお言葉を頂きました。また、数名のご利用者にも餅つきをしてもらうことができたことが個人的にとっても嬉しく思いました。皆様のいい笑顔を見て、来年もぜひ開催できたらなと思いました。 追伸：杵って結構重いんですね。

餅つき



思い起こすとあれはまだほんの小学生の頃。それは冷たい風の吹く冬空の下でも半袖半ズボンで過ごす元気な少年だった頃です。何処で行われたか、どんな経緯だったかも今となっては遠い薄れた記憶の中でよく思い出せませんが、それは多分町内会の行事で行われた餅つき大会だったかと思います。初めて見る餅つき大会に胸を躍らせながら参加した記憶と、付きたての餅がとっても美味しかった事だけは記憶に根付いています。大勢の人に注目される中、威勢のいい掛け声に合わせて大きな



3階介護副主任 齋藤克彦





杵を振り上げた時の高揚感が、忘れられない記憶として刻まれたのだと思います。

昨今では子供の数もすっかり減ってしまいお祭りや地元の行事は下火となっているように感じられます。思えばあれ以来餅つき大会に参加する事も目にする事もほとんどなかった気がします。

大切な日本の文化、そして懐かしい子供の頃の思い出。ご利用者の皆さんの心の中にも似たような思いがあるのでしょうか。

お年寄りがお餅を食べるのは危険、との声はいろんな方面から

聞こえてきます。安全を重視する生活は確かに大切ですが、それと同時に生活に充実感を求める事も同じくらい大切な事だと思います。なかなか両立することはできません。今回のこの企画も職員にとって不安と期待が混ざりあったものでしたが、いざ開催されると、多くの方々の笑顔と威勢のいい掛け声を目に、耳にして、皆さんの心の中に呼び起こされた記憶や感情を感じ取ることが出来ました。

デイケアの職員である私は半ば乗っかる形で参加させてもらったところもあったため、入所職員の方々のご苦勞と決断には頭が上がりませんが、その末席としてご利用者様方に楽しんでいただく企画に参加出来たことを本当に嬉しく思いました。

よいしょー！と、あの少年時代に聞いた掛け声を、皆さんの心に響かせることができたでしょうか。

デイケア主任 大塚秀行



花見2020

今年は暖冬だったため、例年より早い開花となりました。毎年一番良い時期にとは思いますが、なかなか上手くはいかないものです。

今年はコロナウイルスの関係で外出は難しいため、敷地内正面玄関の裏側にスペースがあり、昼食のお花見弁当を食べながら桜を見る予定でいました。しかし残念ながら当日は、北風が強く寒い1日となり中止になりました。

たまたま予定していた日の前日はとても暖かく、予定していた場所で桜を見る事ができました。

「桜の木には鳥が2羽、あれは何ていう鳥だろう？」（誰にもわからず・・・）

「舞ってきた桜の花びらをキャッチすると良い事があるんだって～！」（やってみるが出来ず・・・）



「綺麗ね～連れて来てもらって良かった！ありがとう！」等の言葉をいただきました。



外出の自粛や面会禁止が続いているため、利用者様も不安やストレスがあると思いますが、少しでも外の風を感じる事ができ良かったのではないのでしょうか。

今後も利用者様の笑顔が見られるよう外出の機会を作り、（今は難しいですが）楽しい時間を一緒に過ごしていきたいと思っております。

2階介護主任 加藤知子



お散歩リハビリで気分転換



当施設は自然豊かな場所にあります。窓越しでも桜や紅葉などで季節を感じることが出来、時には野生のリスが姿を見せることもあります。天気の良い日は外に出て、施設の敷地内を歩行練習することもあります。敷地外で歩行練習することはありませんでした。職員が「今朝通勤する時に綺麗な花が咲いていましたよ」と外の様子を話しても、「そこまで歩いて行けないし…」と残念そうに返されることも。リハビリに日々励んで歩くことに自信を持っても、施設の外へ足を運ぶことが出来ないのでは、日々の生活へのモチベーションも上がりません。



そこでリハビリ職員が中心となり、施設近隣で自然や季節感を味わいながら歩行練習する機会を設けました。「お散歩リハビリ」と称して、初回はご利用者数名と車ですぐの小雀公園へ。普段と違う景色の中を歩くと、目に映るものが新鮮に感じられ、自然と会話も盛り上がります。気が付けば、普段の歩行練習よりも少し多く歩いていましたが、ご利用者の表情はいきいきとしたものに見えました。2回目は梅の花を楽しむ場所でお散歩リハビリ。梅の木の地主さんがご好意で、

梅の咲いた枝をお土産に渡してくださいました。予想外のサプライズに加えて、日頃話すことのない施設外の方との会話も弾み、施設の中ではなかなか感じえない刺激を受けられたのではないのでしょうか。



感染症予防のため、お散歩リハビリを休止していますが、落ち着いた頃に再開する予定です。時には普段と違う環境でリフレッシュして、日頃の生活を穏やかに過ごしていただければと思います。

リハビリテーション科副主任 坂本一樹

面会制限ご協力御礼

2月24日の国からの要請を受けて、3月1日より面会制限を開始してから1ヶ月が経ちました。ご協力に心から感謝申し上げます。

要請が出た当初と現在を較べると、施設を取り巻く環境は改善というよりはさらに厳しい状況になっていると感じていて、何時になったら解除できるか全く予測が出来ません。

施設に来ることが出来ない、また洗濯物だけを取りに来られるご家族の皆さまには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

そこでせめてものお詫びの気持ちを込めて、入所者の皆様の近況を写真にして同封しましたのでご覧いただければと思います。

また、テレビ電話の開設に向けても準備を始めておりますので、開設出来次第改めてお知らせいたします。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

事務長 菊池明彦